

## 別添3. 数量化理論Ⅲ類の簡易な説明

日本人大学生に対して、同世代の他者が有する特徴の意識と、特定の特徴を有する他者に対してどのような感情を抱くかを、数量化理論Ⅲ類によって分析した結果を第29図に示す。回答者は、自分との比較基準(e.g., 学年が上, ルックスがいい; 第17表)に対して、それぞれの特徴を有する者に対して抱く感情(e.g., 嫉妬を感じる, 礼儀に気を使う; 第18表)を選択した。

---

 第32表 自分との比較基準
 

---

ルックスが良い  
 知識が豊富  
 少し年上  
 お金や物をたくさん持っている  
 学年が上  
 異性に人気  
 有名私大に通っている  
 友達が多い  
 要領が良い  
 スポーツができる

---

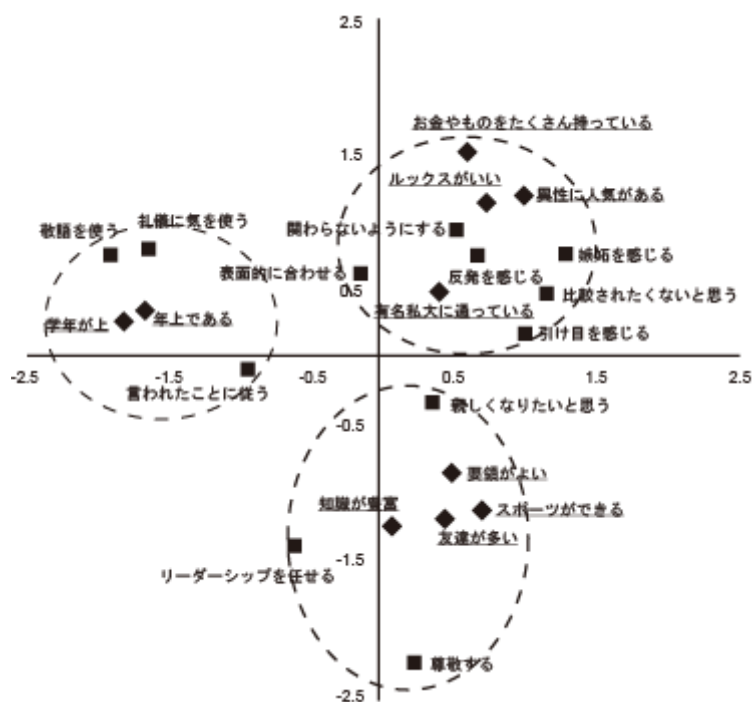
 第33表 喚起される感情一覧
 

---

敬語を使う  
 礼儀に気をを使う  
 言われたことに従う  
 嫉妬を感じる  
 リーダーシップを任せる  
 関わらないようにする  
 引け目を感じる  
 表面的に合わせる  
 比較されたくないと思う  
 尊敬する  
 親しくなりたいと思う

---

図\_1に見られるように、日本人大学生が意識する同世代他者の特徴と、意識された他者の特徴によって喚起される感情との関係は3つの領域に分類することができる。



Note. ◆下線は比較基準を, ■は喚起される感情をそれぞれ示す

第45図 数量化理論Ⅲ類による分析のプロット図サンプル  
(出典：新井・松井, 2003 を元に編集)

第図 29 に見られるように、類似した特徴をもつ項目が互いの近隣にプロットされる。仮に、第図 29 の上部分にある円を領域 1 として考える。領域 1 には、「ルックスがいい」や、「異性に人気がある」など、外見や社交性に関連する項目が集まった。同時に、そのような特徴をもつ他者に対して抱く感情として、「反発を感じる」、「関わらないようにする」などの項目が集まった。これらの結果を解釈すると、次のような傾向が示唆される。

まず、日本人大学生が同世代の他者の特徴を意識する際、大きく分けて 3 つの点に注意している。そのうちの一つに、「外見・社交性」というものが考えられる。また、「外見・社交性」で自分よりも優れていると感じられる同世代の他者に対しては、反発や嫉妬、関係への消極性など、人間関係上ネガティブな感情が喚起される。

数量化理論Ⅲ類はこのように、類似した項目や、関連する要因（上の例の場合は喚起される感情）との関係を、それぞれの位置関係から概観することを可能にする手法である。

上の例で「他者の特徴」は、「キーワード」に相当し、「喚起される感情」は「研究機関」や「活動種別」に相当する。